

上越地域「新之助」情報便 No.5

令和7年7月10日
上越農業普及指導センター

出穂期は前年並み 穂肥は生育診断して実施！

1 生育概況

- 5月15日頃田植の平坦地では、草丈はやや長く、茎数はやや多い傾向が見られますが、ほ場間差が大きくなっています。葉色は指標値並みですが、急激に淡くなっているほ場も見られます。
- 葉数の進みは平年並みで、平坦地の幼穂長は0.3mm程度でした。

草丈：やや長い 茎数：やや多 葉数：並み 葉色：並み

調査場所		田植日	草丈 (cm)	茎数 ㎡当たり(本)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
<平坦地指標>			56	610	11.7	35.0
上越市下稻塚	平坦地	5月16日	66	778	11.8	38.6
大潟区吉崎	平坦地	5月15日	56	551	11.5	30.6
<中山間指標>			60	600	12.0	35.0
安塚区坊金	中山間	5月27日	51	490	11.2	33.7

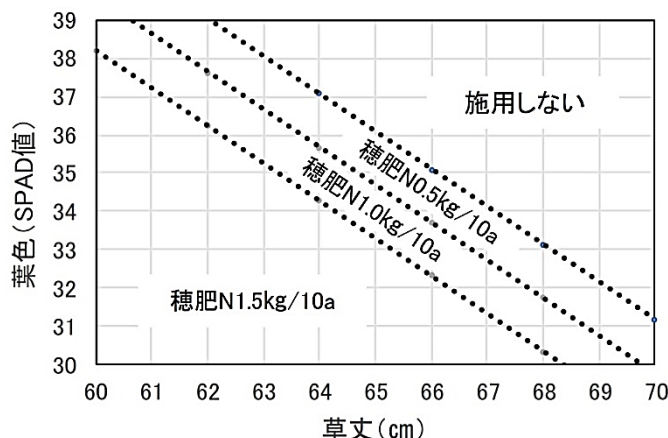


図 適正な㎡当り粒数に誘導するための穂肥1回目施肥窒素量のめやす（「新之助」栽培指針から引用）

2 今後の管理

- 1回目の穂肥は出穂21～18日前（幼穂長5～10mm）に施用してください。
- 5/15頃の田植えのほ場では、幼穂形成期は7月16日頃、出穂期は8月8日頃の見込みです。この場合、1回目穂肥の適期は7/18～21頃になります。
- 施用量は1回当たりの窒素成分で1kg/10aをめやすとしますが、幼穂形成期の草丈や葉色に応じて0.5～1.5kg/10aの範囲で調整してください（図を参考）。
- これから出穂期にかけて最も水を必要とするので、飽水管理を継続してください。
- いもち病の発生に注意し、発病が見られたら緊急防除を実施してください。

※穂肥等作業中はこまめに水分補給するなど、熱中症対策を徹底しましょう。

問い合わせ先 上越農業普及指導センター作物担当（電話025-526-9406）